

事務事業名	救急救命士及び救急隊員の育成研修・参画事業		所属部局	消防本部		単位番号	13041						
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属課室	消防課		課長名	芦沢俊一						
			所属担当	警防・救急係		担当者名	刃刀義仁						
基本政策	基本計画体系	I	情報と連携の都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目	
政策		06	安全な環境づくり		事業区分	01	一般	09	01	01	030	04	
施策		08	防災体制の充実										
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 7 年度)		法令根拠	消防組織法、消防法、救急救命士法									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 救急救命士法に基づき、救急救命士の資格取得及び取得後の病院実習を含む研修等を行い、山梨県メディカルコントロール協議会(以後MC協議会)における救急活動事後検証を実施する。			事業費の主な内訳 (24年度 決算見込)									
				項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)						
				消耗品費	145								
				手数料	36								
				会議、研修負担金	674								
			その他負担金	213									
							計					1,068	

1 現状把握(DO)

① 事務事業の目的と目標		
① 活動	24年度活動実績 ・病院実習(生涯学習18人) ・気管挿管実習 2人 25年度活動予定 ・病院実習(生涯学習18人) ・救急救命士養成 1人 ・気管挿管実習 2人	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない ア 派遣件数 単位 件 イ 派遣人員 単位 人
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	救急救命士及び救急隊員	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない ア 職員の数 単位 人
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	職員の救急業務に係る知識、技術の向上が図れる。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない ア 資格取得及び実習した職員数 単位 人
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	職員の救急業務の技術上の向上。 組織の強化。 救急現場での的確、迅速な活動。	⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない ア 知識、技術が発揮できた職員の割合 単位 %

② 事業費・指標の推移		単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)	
年間トータルコスト	事業費	国庫支出金	千円							
		県支出金	千円							
		地芳債	千円							
		その他	千円							
		一般財源	千円	996	1,127	3,164	3,336			
	事業費計(A)	千円	996	1,127	3,164	3,336	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1			
		延べ業務時間	時間	800	800	800	800			
		人件費計(B)	千円	3,170	3,170	3,170	3,170	0	0	0
		(A)+(B)	千円	4,166	4,297	6,334	6,506	0	0	0
活動指標		アイウ	件 人	6.0 24.0	6.0 24.0	6.0 24.0	6.0 24.0			
対象指標	アイウ	人	79.0	79.0	79.0	79.0				
成果指標	アイウ	人	24.0	24.0	24.0	24.0				
上位成果指標	アイ	%	30.0	30.0	30.0	30.0				

③この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	平成7年度に救急救命士の養成が始まったことによる。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか?また、今後の予測は?	平成22年度までに19人の救急救命士を養成。平成15年4月1日から救急救命士法の改正により、救急救命士が行う除細動の実施が認められ、平成16年7月1日より気管挿管、薬剤投与も認められた。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	特になし

④ 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	<input type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	救急隊員及び救急救命士の研修は、山梨県及び山梨県メディカルコントロール協議会が行う研修等を受講することとなるため。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	救急救命士及び救急隊員の育成研修・参画事業	所属部	消防本部	所属課	消防課
-------	-----------------------	-----	------	-----	-----

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 救急救命士及び救急隊員がたいしようであり、119番要請された救急事案に対し迅速的確な対応を図るため。
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 救急業務は常備消防の任務であり、救急業務の実施に隊員の質の向上が不可欠であると考える。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 <input type="checkbox"/> 民間・NPO <input type="checkbox"/> 市民協働
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 年々新たな処置範囲拡大が進められ、病院実習が必要であり、実施機関が他にない、事業のやり方を変えることは困難と考えられる。
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input checked="" type="checkbox"/> 影響なし <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 他に救急救命士及び救急隊員の養成及び研修の機関が無い ため 他に救急救命士及び救急隊員の養成及び研修の機関が無い ため
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 救急救命士の配置状況等を検討し、今後の救急救命士の養成を2年おきとすることで、毎年実施してきた救急救命士養成所への入所経費の削減が図れる。
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 救急業務の一環であり、他に方法は無いと考える。
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 救急救命士及び救急隊員が対象であり、救急業務の遂行に救急救命士及び救急隊員が必要であるため。

## 3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	救急救命士の配置状況等を検討し、今後の救急救命士の養成を2年おきとすることで、毎年実施してきた救急救命士養成所への入所経費の削減が図れる。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
<input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果) <input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果) <input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果) <input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果) <input type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切) <input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	維持	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
	低下	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																		
(2) 改革改善案について	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① 救急救命士養成に係るコストの削減。 ② ③	<table border="1"> <tr> <td>成果優先度評価結果</td> <td>⑫</td> </tr> <tr> <td>コスト削減優先度評価結果</td> <td>⑥</td> </tr> </table>	成果優先度評価結果	⑫	コスト削減優先度評価結果	⑥																	
成果優先度評価結果	⑫																					
コスト削減優先度評価結果	⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
① 救急救命士の配置状況を検討し、今後の救急救命士の養成を2年おきとすることで、毎年実施してきた救急救命士養成所への入所経費の削減が図れる。 ② ③																						